

第3期 子ども一貫教育基本計画

グランドデザイン

0歳から18歳までの子ども一貫教育方針

ひとみかがやく日本一の子ども



令和6年2月

糸魚川市

糸魚川市教育委員会

● 子どもたちを乗せて気球が飛んでいるグランドデザインに込めた願い

表紙のグランドデザインのベースは、糸魚川ユネスコ世界ジオパークの認定を受けた糸魚川の豊かな大地です。その上には「家庭」「地域」「園・学校」が相互に交流し連携をとりながら、気球に乗る子どもを育てていくイメージを描いています。子どもの健やかな成長の様子を気球に見立て、私たちは「愛着形成」「自己肯定感の育成」「自立支援」といった暖かな「風」を送り続けます。この風が、家庭、地域、園・学校からの指導と支援です。

風を受けた子どもが乗る気球はさらに大きく膨らみ、徐々に高度を上げていきます。気球が高度を上げるにつれ、雨や風雪に耐えるなどの様々な体験を重ね、視野を広げていきます。ここでは、より高みを目指すような自助努力を子どもに期待しています。

上空に漂う雲は、「ジオパーク学習」「夢を描き、夢を育てる」の2つをイメージしました。雲は太陽の光を受けることで一層かがやき、また、様々な姿を変えて循環し、地域に恵みをもたらします。恵みを受けた自然のエネルギーも子どもの気球に吹き込まれる「愛の風」になって、再び子どもの気球を大きく膨らませてくれます。

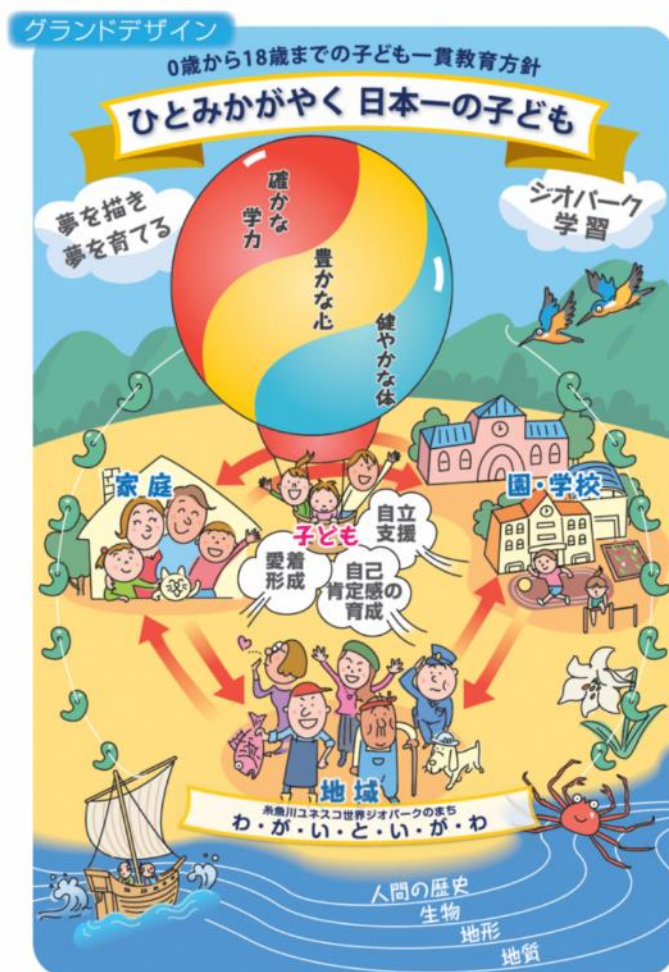
いつか成長し大人になる子ども。

気球は糸魚川の大地に戻り、気球に乗っていた子どもたちは、今度は、次代の子どもを育てる「風」を送り込む立場になって、教育に貢献していきます。

このような思いや願いを込めて、グランドデザインを構想しました。

「日本一の子ども」とは、自信をもって世の中に力強く歩み出す子どもの姿を表したスローガンです。

家庭、地域、園・学校が、それぞれの役割を自覚し、環境を整え、責任をもって教育に取り組みます。子どもたちに自立を促し、社会に送り出すよう努めます。一人ひとりが描く子どもの姿は違っても、個性や能力をみんなで大切に伸ばそうと取り組むことで、他に誇れる子どもを育てることができます。



「0歳から18歳までの子ども一貫教育方針」をご理解いただくために

● 「ひとみかがやく日本一の子ども」の育成を目指して

「日本一の子どもを育む」とは、「子どもを育む環境」を整え、0歳から18歳までの一貫した考え方、方法で熱意をもって、市民総ぐるみで子どもの教育を推進することです。平成26年度に見直した「子ども一貫教育方針」と、これに基づいて作成された第2期及び本基本計画（第3期）の作成は、その一環です。

一貫した教育方針のもと、子どもを見守り育む大人の私たちが、糸魚川の子どもたちを育む仕組みを整え、「ひとみかがやく日本一の子ども」と誇りをもてるように育成していきます。

● 一貫教育とは

糸魚川で生まれ、育ち、学び、成長を続ける子どもたちが、家庭、地域、園・学校の連携のもと、心・健康・学力のバランスがとれ、夢をもった子どもに育つことを目指し、0歳から18歳まで、適時適切な教育と切れ目のない支援を提供していくことです。

● 一貫教育の基本理念と3つの柱

子ども一貫教育の基本理念のもと、「豊かな心の育成」「健やかな体の育成」「確かな学力の育成」を子どもの教育における3つの柱とし、糸魚川市の教育における大きな特色である「ジオパーク学習」と「夢を描き、夢を育てる」（キャリア教育、特別支援教育）を重要な教育活動として位置付けることを基本方針としました。

－基本理念－

- 心・健康・学力のバランスのとれた子どもを育てます。
- 一人ひとりの個性を生かしてその能力を伸ばし、子どもの夢を育てます。
- ふるさと糸魚川をよく知り、郷土を愛する子どもを育てます。
- 家庭、地域、園・学校が力を合わせて糸魚川の子どもを育てます。

－3つの柱－

- 豊かな心の育成
自己肯定感を高め、道徳性と社会性をもつ子どもを育てます。
- 健やかな体の育成
規則正しい生活リズムを身に付け、自分の健康を管理する力をもつ子どもを育てます。
- 確かな学力の育成
学びあいにより学習意欲を高め、確かな学力を身に付ける子どもを育てます。
交流及び共同学習をとおして自立して学ぶ子どもを育てます。

第3期 子ども一貫教育基本計画 策定にあたって

子どもの実態と社会の状況を考慮し、これからの子どもの育成にとって必要な環境づくり、指導・支援の在り方について検討し、以下の点を見直しました。

- ・新型コロナウイルス感染症流行に伴って様々な活動が制限され希薄になってしまっていた、「人とのかかわり」や「人とのふれあい」、「自分に自信をもつこと（自己肯定感）」の回復を重視しています。
- ・計画の全てに渡り、保護者、地域、園・学校の連携・協働による取組を重視しました。
- ・育てたい力や支援体制について見直しました。
- ・文部科学省「教育振興基本計画」、新潟県「教育振興基本計画」、こども家庭庁「こども基本法」、「新潟県こども条例」、国が批准している「児童の権利に関する条約（同「子どもの権利条約」ユニセフ）」について、その中で取り上げられているダイバーシティ教育^{*1}、ウェルビーイング^{*2}、アウトメディア^{*3}、18歳成年・成人、自立、非認知スキルの育成、いじめ対応、いじめ防止、子どもの居場所づくり、愛着形成などの今日的課題や、時代のニーズをもとに、令和9年度までの目標や取組の方向、発達段階に応じた指導の重点を見直しました。

^{*1}ダイバーシティ教育：人種、性別、文化、国籍などの違いを受け入れ、互いに認めあうための配慮や考え方、行動を促す教育

^{*2}ウェルビーイング：児童生徒が幸福で充実した人生を送るために必要な、心理的、認知的、社会的、身体的な働きと潜在能力

^{*3}アウトメディア：テレビ、スマートフォン、ゲーム機など、電子メディア機器から離れている状態

も く じ

第1章 糸魚川市子ども一貫教育基本計画について

1	基本計画策定の経緯と趣旨	1
2	基本計画の位置付け	1
3	基本的な考え方	2
4	基本計画の期間	3
5	基本計画の策定体制	3
6	基本計画の改善と推進体制	3

第2章 豊かな心の育成

1	現状と課題	4
2	令和9年度の目標	4
3	基本的な考え方（イメージ図）	5
4	取組の方向	5
5	発達段階での指導の重点	6

第3章 健やかな体の育成

1 現状と課題	10
2 令和9年度の目標	10
3 基本的な考え方（イメージ図）	11
4 取組の方向	11
5 発達段階での指導の重点	12

第4章 確かな学力の育成

1 現状と課題	16
2 令和9年度の目標	17
3 基本的な考え方（イメージ図）	17
4 取組の方向	17
5 発達段階での指導の重点	18

第5章 3つの柱を支える重要な教育活動

1 キャリア教育の推進	
(1) キャリア教育とは	22
(2) 現状と課題	23
(3) 令和9年度の目標	24
(4) 基本的な考え方（イメージ図）	24
(5) 指導の重点	24
2 ジオパーク学習の推進	
(1) 現状と課題	28
(2) 令和9年度の目標	29
(3) 基本的な考え方（イメージ図）	29
(4) 取組の方向	29
(5) 発達段階での指導の重点	30
3 特別支援教育の推進	
(1) 現状と課題	34
(2) 令和9年度の目標	34
(3) 基本的な考え方（イメージ図）	34
(4) 取組の方向	35
(5) ライフステージにおける発達支援	35

参考資料 1 基本計画評価のための第2回市民アンケート調査結果	40
2 評価と点検のために	42
3 策定委員会 委員・庁内委員	46

基本計画の活用のために

本基本計画は、子どもにかかわる関係者の実践を促し連携を図るものです。それぞれの立場から子どもの教育を考える際に、以下の項目を念頭に置いて、ねらいや実践例などを確認して実践を進めてください。

- 1 「豊かな心の育成」「健やかな体の育成」「確かな学力の育成」の3つの柱と、「キャリア教育」「ジオパーク学習」「特別支援教育」の3つの重要な教育活動を相互に関連付けて指導・支援します。

同じ活動でも、重点の置き方により、育む力が違ってきます。

- 2 3歳までの愛着形成やしつけを土台とした乳幼児期（0～6歳）の指導・支援は、人としての基本を形成する重要な時期として特に大切にします。

「遊びが学び」の乳幼児期は、全ての体験や活動が発達や成長の基礎となる時期です。なお、本市では、子どもの発達の特徴から、9歳（小学校3年生）までのしつけや教育を重視した指導・支援を行っていきます。

- 3 個人差に配慮した指導・支援をしていきます。

発達段階の表記は一般的な発達時期として示してあります。個人差に配慮し、実態に応じた指導や支援を行っていくことが大切です。特別な教育的ニーズに対応し、ライフステージごとのとぎれのない支援に向けた体制及び環境の充実に努めていきます。

- 4 ねらいに即した実践例を工夫していきます。

発達段階ごとに指導・支援のねらいと実践例が記載してあります。実践例を一例として、ねらいに即した活動を実践してください。

- 5 家庭、地域、園・学校での共通理解と連携・協働^{*1}による実践が何より大切です。

本基本計画では、常に家庭、地域、園・学校が発達段階^{*2}に応じて共通のねらいをもって取組を展開できるように構成されています。三者が取組の意味や役割を理解し合い、連携・協働により実践することが、子どもへの最も効果的な支援となります。

現在、持続可能な社会の実現のための開発目標（SDGs）^{*3}が設定され、様々な場面で達成に向けた取組が行われています。その理念を生かした探究活動を、様々な校種、発達段階に応じて実践していきます。

^{*1}協働とは、目標や役割を共有、共通理解し共に考え行動することです。

^{*2}基本計画の発達段階・発達課題は、E. H. エリクソンの「心理・社会的発達段階理論」（村井潤一編「発達の理論を築く」別冊発達4 ミネルヴァ書房）より一部引用したものです。

^{*3}SDGsは、「Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標」という、2030年までに達成を目指す国際的な17の目標を指します。

第1章 糸魚川市子ども一貫教育基本計画について

1 基本計画策定の経緯と趣旨

本市では、市発展の原動力は、未来を担う人づくりにあるとの考えに立ち、市民総ぐるみで「子どもを育む活動」を提唱し、「明日を担う人づくり」を掲げ、教育施策の充実に努めてきました。

平成21年度に、「ひとみかがやく日本一の子ども」を育むために、「子ども一貫教育方針」を策定し、0歳から18歳までを見通した、子ども育成の目標と方向を示しました。それに基づき、平成22年度から27年度までの「子ども一貫教育基本計画」を定めました。

平成26年度に「子ども一貫教育方針」を見直し、平成28年度から令和5年度までの「第2期子ども一貫教育基本計画」を新たに定め、その実現に取り組みました。

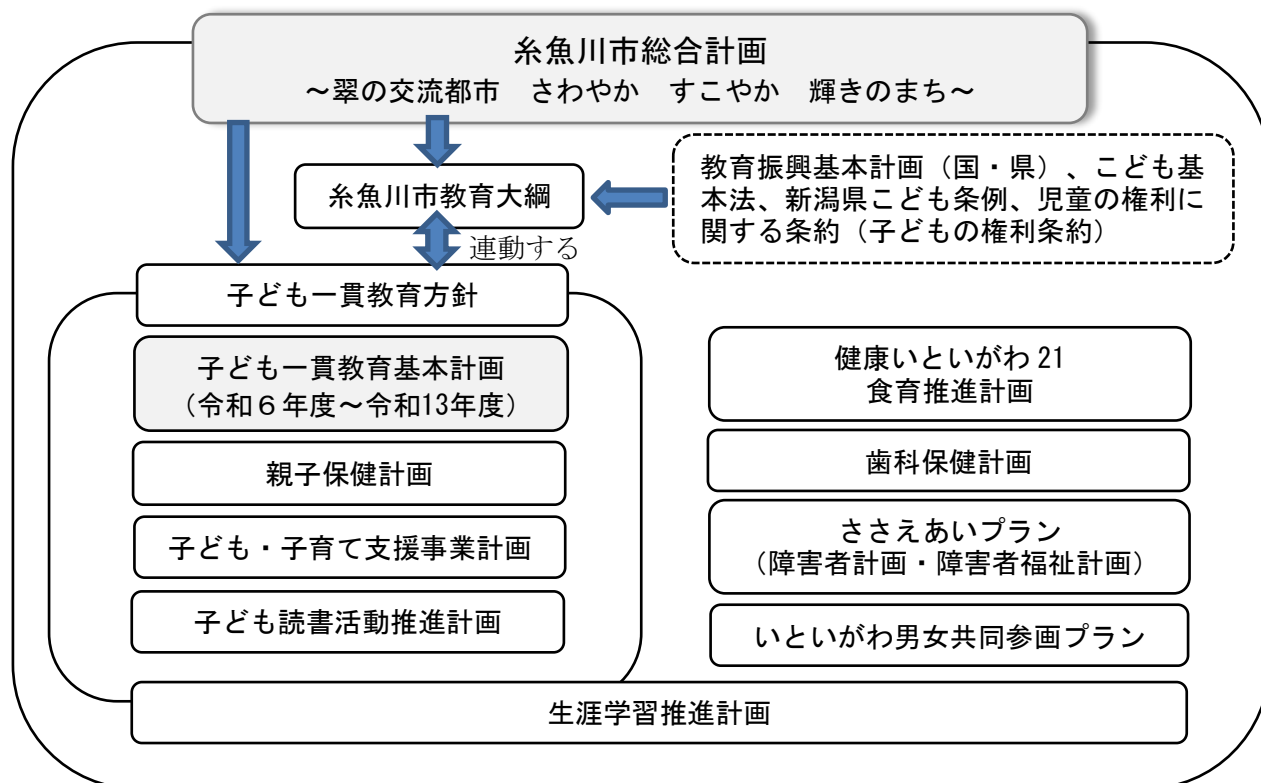
「第2期子ども一貫教育方針」はそのまま「第3期子ども一貫教育方針」として継承することを策定委員会で確認し、今日的な課題解決の実現へとつなげるために新たに定めたのが「第3期子ども一貫教育基本計画」です。

基本計画は、子どもの「自立」のために、家庭、地域、園・学校などが互いの役割を共通認識し、連携しながら、子どもの発達段階に応じて、実践活動に取り組むための計画です。基本計画には、市民総ぐるみで取り組む教育活動の具体的な目的と実践内容(例)を示しました。

2 基本計画の位置付け

基本計画の位置付けは、次のとおりとします。糸魚川市総合計画の施策と連動させて、取組を進めます。

〈諸計画との関連〉



3 基本的な考え方

(1) これまでの経過と第3期の計画

第1期	平成21年度	平成22年度	平成23年度～平成27年度	
	子ども一貫教育方針策定	子ども一貫教育基本計画策定	中学校区単位での取組	
第2期	平成26年度	平成27年度	平成28年度～令和元年度	令和2年度～令和5年度
	子ども一貫教育方針策定	子ども一貫教育基本計画策定	前期取組 平成30年度アンケート実施 平成31年度計画の改善・修正	後期取組 令和4年度アンケート実施 令和5年度計画見直し
第3期		令和5年度	令和6年度～令和9年度	令和10年度～令和13年度
		子ども一貫教育基本計画策定	前期取組 令和8年度アンケート実施 令和9年度計画の改善・修正	後期取組 令和12年度アンケート実施 令和13年度計画見直し

(2) 前基本計画の成果と課題

<成果>

- 幼稚園・保育園、小学校・中学校・特別支援学校の連携が着実に進んでいる。
中学校区の幼稚園や保育園、小学校・中学校が連携し、知・徳・体のバランスのとれた子どもたちを育てる活動に取り組んでいる。
- 「早寝早起きおいしい朝ごはん」運動が定着し、「朝食を毎日食べている」割合が、小学生・中学生ともに全国平均よりも高い。^{*1}
- 学校生活を楽しく送っている子どもが多い。^{*2}
「学校に行くのが楽しい」割合が、小学生・中学生ともに全国平均よりも高い。
- 地域の行事に参加する子どもの割合が全国平均よりも高い。^{*3}
- 学校の授業におけるPC・タブレットなどのICTの使用が浸透している。^{*4}

(^{*1}～^{*4} 令和4年までの全国学力・学習状況調査結果より)

<課題>

- 基礎学力と望ましい生活習慣の定着を目指して、学校、家庭がさらに連携する必要がある。
- 家庭、地域、園・学校が連携・協働により道徳性と社会性を育てていく必要がある。
- 子ども一貫教育について市民への説明を十分行い、当事者意識を高める必要がある。
- 子育てへの不安やストレス、学力面への心配に対応する必要がある。

(3) 基本計画で目指す方向性

基本計画では、子ども一貫教育方針で掲げる「豊かな心の育成」「健やかな体の育成」「確かな学力の育成」の3つの柱と、それを支える重要な教育活動として「キャリア教育」「ジオパーク学習」「特別支援教育」を位置付けています。

それぞれの目指す方向性は、次のとおりです。

	項目	目指す方向（育てたい力や支援体制）
3つの柱	豊かな心	自己肯定感があり道徳性や社会性をもつ子どもの育成
	健やかな体	健康を自己管理できる力の育成
	確かな学力	主体的に学び続ける力の育成
重要な教育活動	キャリア教育	自分への自信（自己肯定感）と、糸魚川への愛着を高める子どもの育成
	ジオパーク学習	体験、学習活動を通じた、ふるさと糸魚川への愛着の形成
	特別支援教育	自立と社会参加を目指した、とぎれない支援の推進

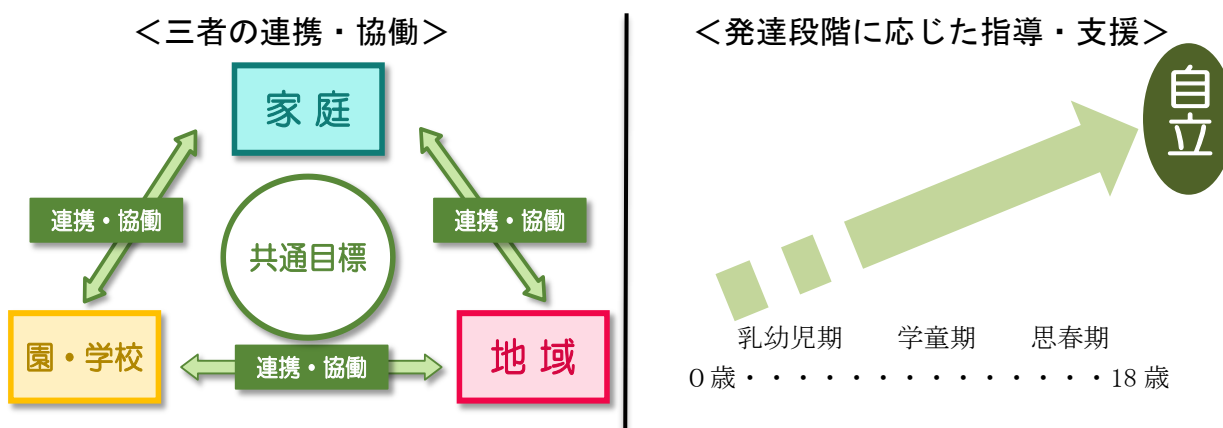
(4) 基本計画推進の体制

基本計画で目指すのは、成人年齢^{*5}である18歳での自立です。そのためには、豊かな心、健やかな体、確かな学力がバランスよく育成されるとともに非認知スキル^{*6}も育成され、ウェルビーイングの向上が求められます。本市では地域との連携・協働による教育活動を展開するために、コミュニティ・スクール^{*7}を核とした学校づくりに取り組んでいます。本市では、平成28年度からコミュニティ・スクールの導入を開始し、令和元年度には全市立学校が取組を行っています。

^{*5} 成人年齢：令和4年4月1日より、18歳が成人年齢に改められました。これにより、未成年者の消費者被害を抑止する「未成年者取消権」が行使できなくなるなどの知識を、18歳の成人時まで身に付けておく必要があります。

^{*6} 非認知スキル：意欲、協調性、粘り強さ、忍耐力、計画性、自制心、創造性、コミュニケーション能力などといった、測定できない個人の特性による能力全般のことです。

^{*7} コミュニティ・スクール：学校と保護者や地域住民がともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させること、協働しながら子どもたちの豊かな成長を支え「地域とともにある学校づくり」を進める仕組みです。



三者の連携・協働により、子どもの「自立」を目指します。

4 基本計画の期間

基本計画の期間は、令和6年度から令和13年度までの8年間とし、前期（令和6年度から令和9年度まで）と後期（令和10年度から令和13年度まで）に分けます。

5 基本計画の策定体制

令和5年度に「第3期糸魚川市子ども一貫教育基本計画策定委員会」を設置し、その中に3つの部会（豊かな心の育成部会、健やかな体の育成部会、確かな学力の育成部会）と3つの班（キャリア教育班、ジオパーク学習班、特別支援教育班）を置き、策定を行いました。

6 基本計画の改善と推進体制

令和8年度にアンケート調査を実施し、令和9年度に計画の改善・修正を図り、後期取組に生かしていきます。

また、令和12年度にアンケート調査を実施し、令和13年度に次期基本計画の策定を行い、改善点を次期基本計画に反映させます。こども教育課が中心となり基本計画を推進していきます。

第2章 豊かな心の育成

1 現状と課題

平成31年度と令和4年度の全国学力・学習状況調査の結果を比較すると、「今住んでいる地域の行事に参加している」という設問に対する肯定的な回答の割合が減少しています。また、「自分にはよいところがあると思う」という設問に対する肯定的な回答の割合は、中学校では増加しているものの、小学校では減少しています。これらの減少の背景には、新型コロナウイルス感染症の影響により、行事の縮小や人とのかかわりの制限があったからだと考えられます。そのような中で、「人が困っているときは、進んで助けますか」という設問に対する肯定的な回答の割合が増加し、他者を思いやる心が育まれていることが分かります。

核家族化、少子化、自然体験不足、急速な電子メディア^{*1}の普及など、子どもを取り巻く環境の変化は、本市の大きな課題でもあります。これまで以上に家庭、地域、園・学校が連携・協働し、愛着形成や温かい心によるしつけ、人とのかかわりを深めることなどをとおして、子どもの自己肯定感を高め、道徳性や社会性を育む必要があります。

子どもたちの意識の変化

質 問 学 年	自分にはよいところがある と思いますか			今住んでいる地域の行 事に参加していますか			人が困っているときは、 進んで助けますか		
	H31	R4	比較	H31	R4	比較	H31	R4	比較
小6年(市)	88.7	82.4	-6.3	90.3	74.0	-16.3	92.2	95.2	+3.0
中3年(市)	80.4	86.5	+6.1	68.9	54.5	-14.4	91.4	93.7	+2.3

「平成31年度、令和4年度 全国学力・学習状況調査」より

単位：％

<豊かな心を育成するために>

- 【家 庭】 豊かな心を育成する基本は家庭である。愛着形成や温かい心によるしつけの大切さについて理解を深めて、子育てをする。
- 【園・学校】 集団生活の中で、人とのかかわりを深め道徳性や社会性を育む。さらに生命尊重や人権意識を高める取組を一層充実する。
- 【地 域】 地域の子どもは地域で育てるという視点に立ち、地域ぐるみで心の教育や体験活動を推進する。

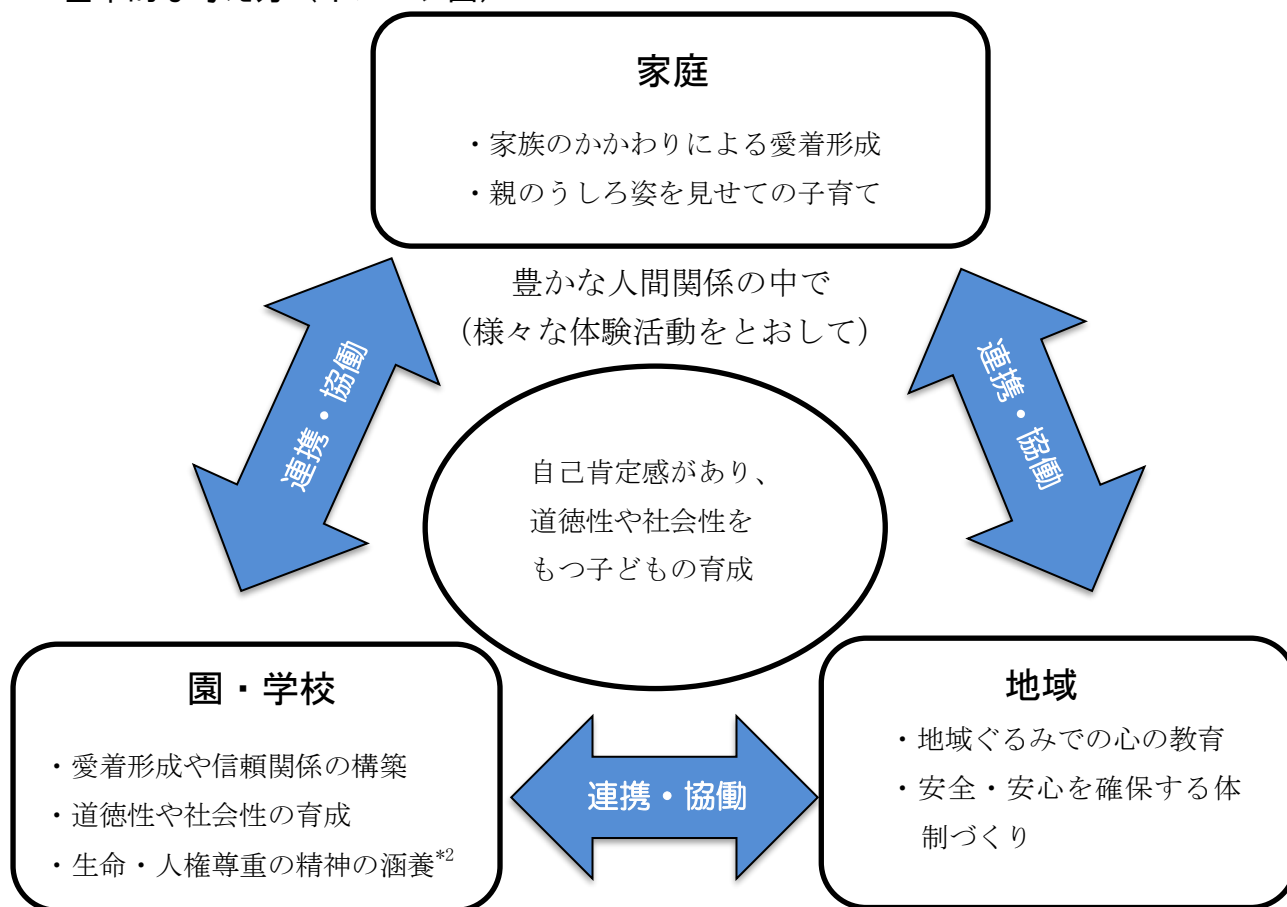
2 令和9年度の目標

自己肯定感があり、道徳性や社会性をもつ子どもの育成のために、家庭、地域、園・学校がそれぞれの役割を果たし、互いに連携・協働して取り組む。

- ・自分のよさを実感し、自分を伸ばそうと努力する子ども
- ・家族とのふれあいを大切にする子ども
- ・地域行事に積極的に参加する子ども
- ・きまりを守り、いじめなど他者を傷付けることをせず、人のために考え、行動する子ども

*1 電子メディア：テレビ、ゲーム、インターネット、スマートフォン、タブレット等

3 基本的な考え方（イメージ図）



*2 涵養（かんよう）：無理をしないでゆっくりと養い育てること

4 取組の方向

豊かな心は、豊かな人間関係や環境のもとで育まれます。一人ひとりの子どもが夢をもち自立するために、子どもの権利を尊重しながら、家庭、地域、園・学校がそれぞれの役割を果たすとともに連携し、愛情をもって毅然とした姿勢で、三者が一体となって子どもとのかかわりを強めていきます。

（1）家庭では、子どもと過ごす時間を大切にしましょう。

子どもと遊んだり、温かい声かけや話をしたりする時間などを大切にしていくなかで、子どもとの愛着が深まっていきます。子どもが安心して過ごすことができる心地よいかかわりを積み重ねていきましょう。

（2）園・学校では、遊びや全教育活動をとおして道徳性や社会性を育成しましょう。

園では遊びや生活、学校ではあらゆる教育活動をとおして、善悪を判断する力やきまりを守る態度、他者を思いやる心やコミュニケーション能力など、社会生活を営む上で大切な道徳性や社会性を育成しましょう。

（3）地域では、地域ぐるみで社会性の育成に努めましょう。

地域ぐるみのあいさつ運動や地域の大人と子どもが一緒に行うボランティア活動、さらに子どもが参加する行事などをとおして、地域ぐるみで心の教育に取り組みま

しょう。また、地域が学校の様々な活動を応援する支援体制づくり、安全・安心を確保する体制づくりを一層充実させましょう。

(4) 三者の連携・協働による豊かな心の育成に努めましょう。

家庭、地域、園・学校が協働で糸魚川の様々な人と交流する生活体験、社会体験の場を設定しましょう。また、様々な体験活動をとおして、感動する心や人間関係を築く力を育みましょう。

優れた舞台芸術や音楽、美術等を鑑賞する機会を設定したり、絵本の読み聞かせや読書活動を充実させたりして、子どもたちの豊かな情操と創造力を育みましょう。

5 発達段階での指導の重点

【乳幼児期】 子どもたちとふれあい、愛着形成に努めましょう。	
家 庭	<ul style="list-style-type: none"> ・ 愛着形成 ・ つながりのある子育て
園	<ul style="list-style-type: none"> ・ 信頼感の育成 ・ 伝えあう力の育成
地 域	<ul style="list-style-type: none"> ・ 愛着形成から自己肯定感の育成 ・ 情操の育成 ・ 判断力の芽生え ・ 子育てネットワークづくり

【学童期】 子どもたちと積極的にかかわり、絆を強めましょう。	
家 庭	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭における温かい絆づくり ・ 地域とのつながり
学 校	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的な礼儀や伝えあう力の育成 ・ 規範意識や善悪の判断力の育成 ・ 自己肯定感、思いやりの心、人間関係を築く力の育成 ・ いじめをしない、見逃さない、他者を傷付けない人権意識の育成 ・ 豊かな情操の育成
地 域	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの社会性・道徳性の基礎づくり ・ 学校支援活動等の推進 ・ 社会教育活動の充実

【思春期】 子どもたちとの絆を大切にし、一人ひとりの夢を応援しましょう。	
家 庭	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自立への支援 ・ 親が手本を見せて教え伝える社会のルール
学 校	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人間関係を築く力の育成 ・ いじめをしない、見逃さない、他者を傷付けない人権意識の育成
地 域	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの社会性・道徳性の育成 ・ 学校支援活動等の推進 ・ 地域社会の一員としての自覚と責任

(**指導の重点** ○…ねらい …実践例)

	0歳～乳幼児期～幼児期前期（乳幼児）～3歳	4歳～幼児期後期（園児）～6歳
	基本的信頼・自律性の発達	自律性・自主性の発達
家庭	<p>愛着形成</p> <p>○温かなやりとり、愛情たっぷりのスキンシップの子育てをしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おんぶ、抱っこでスキンシップをしよう ・子どもの瞳を見て温かい言葉がけをしよう ・「甘えさせる」と「甘やかす」ことの違いを意識した子育てをしよう ・絵本の読み聞かせ、わらべ歌、子守歌のある子育てをしよう <p>つながりのある子育て</p> <p>○親子・家族で積極的に地域に親しもう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・散歩し、屋外で遊ばせよう 	<p>愛着形成から自己肯定感の育成</p> <p>○親は手本、親の姿を見せながら子どもを育てよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族であいさつを習慣化しよう ・子どもの声に耳を傾けよう <p>○きちんと教えて、やってみせ、あせらずに子どものやる気の芽を育もう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・愛情をもってよいこと悪いことの区別を教えよう ・「早寝早起きおいしい朝ごはん」で生活リズムをつくろう ・じゃれつき遊びをしよう <p>つながりのある子育て</p> <p>○親子・家族で積極的に地域に親しもう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親子でジオパークを楽しもう
園・学校	<p>信頼感の育成</p> <p>○一人ひとりを温かく受容（受け入れ）共感しながら育てる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安心して自分を表せるようにしていく ・じゃれつき遊び、昔遊びを奨励する <p>○甘えや自我の育ちを受け止め、自分でやろうとする自立に向けての自発的な活動を促す</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊びや生活をとおして、興味をもったことを保障していく ・食事・排泄など、簡単な身の回りの活動を支援する 	<p>伝えあう力の育成</p> <p>○元気よくあいさつができ、楽しくかかわる子を育む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝夕のあいさつを習慣化する ・高齢者や学校との交流活動の推進 <p>情操の育成</p> <p>○想像力を養う活動や豊かな自然体験活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵本や音楽、造形遊びの楽しさを存分に体験させる ・生き物と楽しく遊ばせる <p>判断力の芽生え</p> <p>○生活や遊びをとおして、してよいこといけないことがあることに気付かせる</p>
地域	<p>子育ての伝承</p> <p>○地域で子育てを支援しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援センターを周知しよう ・子ども同士、親同士の交流を図り安心・安定した状態で子育てができるような環境づくりを進めよう ・子育て支援センターの相談会への案内、広報活動を充実させよう ・各地域の公民館行事を通じての交流を進めよう 	<p>子育てネットワークづくり</p> <p>○家庭、園・学校、地域が一体となって子育てを支援しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもへの温かい声かけをしよう ・地域ぐるみのあいさつ運動を進めよう ・地域の伝統行事へ気軽に参加できる工夫をしよう ・地域の遊び場の整備を進めよう ・各地域の公民館行事を通じての交流を進めよう

(**指導の重点** ○…ねらい ・…実践例)

	7歳～学童期前期（小1～3年生）～9歳	10歳～学童期後期（小4～6年生）～12歳
	勤勉性の発達（前期）	勤勉性の発達（後期）
家庭	<p>家庭における温かい絆づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ○家族で一緒に過ごす時間を工夫しよう ・自然の中での体験活動をさせよう ・自分のことは自分でできるように励まそう <p>基本的な生活習慣づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ○親が手本を見せて伝える思いやりの心やあいさつの習慣づくりをしよう ・「早寝早起きおいしい朝ごはん」で生活リズムづくりをしよう ・家族で約束「わが家のルール（電子メディアの付き合い方など）」を決めよう <p>地域とのつながり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親子で地域の行事に参加しよう 	<p>家庭における温かい絆づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生活の楽しさや厳しさを意識させよう ・家庭での役割、責任をもたせ温かく見守ろう <p>基本的な生活習慣づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ○親が手本を見せて伝える思いやりの心やあいさつの習慣づくりを進めよう ・規則正しい生活リズムを家族ぐるみで進めよう ・家族で約束「わが家のルール（電子メディアの付き合い方など）」を決めよう <p>地域とのつながり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親子で地域の行事に参加しよう
園・学校	<p>基本的な礼儀や伝えあう力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○明るいあいさつや返事を習慣化する ・家庭や地域と連携した取組を工夫する <p>規範意識や善悪の判断力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○きまりを守る態度や善悪の判断力を育てる ・きまりの必要性やしてよいことと、してはいけないことがあることを教える <p>いじめをしない、見逃さない、他者を傷付けない人権意識の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめや差別をしないよう指導する <p>豊かな情操の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感動する心や創造力を育む ・自然や動植物に親しませる ・読書活動を充実させる ・体験活動を充実させる 	<p>基本的な礼儀や伝えあう力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○明るいあいさつや返事を習慣化する ・家庭や地域と連携した取組を工夫する <p>自己肯定感、思いやりの心、人間関係を築く力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えをもち自他のよいところに気付かせる ・集団の中での自分の役割、責任を果たさせる <p>いじめをしない、見逃さない、他者を傷付けない人権意識の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめや差別をしないよう指導する ・「いじめ見逃しゼロスクール集会」への児童の主体的な取組を工夫する <p>豊かな情操の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞、音楽祭、読書活動、体験活動を充実させる
地域	<p>子どもの社会性・道徳性の基礎づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域ぐるみであいさつ運動などを進めよう ・地域行事で大人が見本を示そう ・子どもに役割をもたせ温かく見守ろう <p>学校支援活動などの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域の力で学校を支援しよう ・環境整備、登下校の見守り、授業やクラブ活動への協力をしよう ・地域における交通安全運動を実施しよう <p>社会教育活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青少年活動のプログラムを工夫し、子どもを地域で育もう 	

(**指導の重点** ○…ねらい ・…実践例)

	13歳～思春期前期（中学生）～15歳	16歳～思春期後期（高校生）～18歳
	同一性の発達（前期）	同一性の発達（後期）
家庭	<p>自立への支援</p> <p>○子どもと向きあう時間を工夫しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族の会話を大切にしよう（親の考えを伝えたり、子どもの意見や考えをよく聞いたりする） ・親子で一緒に情報モラルを学ぼう ・放任と過干渉はやめよう ・仕事のやりがいや苦勞を伝えよう <p>親が手本を見せて教える社会のルール</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域のボランティア、行事への参加 ・人権意識と思いやりのある言動 ・社会の一員としての自覚を促そう 	<p>自立への支援</p> <p>○子どもの夢を応援しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族の会話を大切にしよう（親の考えを伝えたり、子どもの意見や考えをよく聞いたりする） ・放任と過干渉はやめよう ・仕事のやりがいや苦勞を伝えよう <p>親が手本を見せて教える社会のルール</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域のボランティア、行事への参加 ・人権意識と思いやりのある言動 ・社会の一員であることの自覚を高めさせよう
園・学校	<p>人間関係を築く力の育成</p> <p>○互いに認めあい高めあう仲間をつくる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校生活の向上を目指し、生徒の自治的な取組を促進する ・ボランティア活動、地域貢献活動を充実させる ・自他の生命尊重の心を育む ・読書を奨励する <p>いじめをしない、見逃さない、他者を傷付けない人権意識の育成</p> <p>○いじめや差別を見逃さない、許さない学校づくりを進める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内面に根ざした道徳性を育成する ・人権意識、生命尊重、規範意識を育む取組を充実させる 	<p>人間関係を築く力の育成</p> <p>○様々な人とのかかわりなどとおして豊かなコミュニケーション力を身に付ける</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動、地域貢献活動を充実させる ・自他の生命尊重の心を育む ・読書を奨励する <p>いじめをしない、見逃さない、他者を傷付けない人権意識の育成</p> <p>○自由と責任、権利と義務について自覚を高める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法やルールの意義や遵守する意味を理解させる ・人権や正義、公正さを重んじる心を育成しよう
地域	<p>子どもの社会性・道徳性の育成</p> <p>○地域ぐるみであいさつ運動などを推進しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが参画できる地域行事を工夫しよう ・郷土の伝統文化を継承しよう <p>学校支援活動などの推進</p> <p>○地域で力を学校を支援しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境整備、登下校の見守り、授業やクラブ活動への協力を進めよう ・交通安全運動の実施に協力しよう 	<p>地域社会の一員としての自覚と責任</p> <p>○子どもがリーダーとなって活躍できる場を設定しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域でのあいさつ運動、交通安全運動への参加を促そう ・郷土の伝統文化の継承を促そう

第3章 健やかな体の育成

1 現状と課題

子どもが健やかに成長していくためには、十分な休養・睡眠、調和のとれた食事、適切な運動が必要です。少子化、情報化、経済不安定などの社会情勢が、成長期の子どもの生活に様々な変化をもたらしています。今後も規則正しい生活習慣の定着に向け、「早寝早起きおいしい朝ごはん」の取組を継続していく必要があります。

【生活リズムの定着】

○「早寝早起きおいしい朝ごはん」運動を進めてきた結果、毎日朝食をとることは定着しています。

△小学校高学年以降、子どもの就寝時刻が遅くなる課題があります。その理由として、塾や習い事に通っていることの他に、電子メディアの普及が挙げられ、学習や調べ物の他、ゲームやSNS^{*1}などの長時間利用が増加しています。

△幼い頃からの長時間の電子メディア利用は、生活習慣の乱れに加え、体力・視力・コミュニケーション能力などの低下が懸念され、電子メディアとのよりよいかかわり方が課題となっています。

【食育の推進】

○園給食や学校給食では地産地消を推進しています。地域の食材を積極的に取り入れたジオ給食を提供しており、子どもたちに好評です。

△朝食は摂取していますが、主食だけを食べている割合が増加し、主食、主菜、副菜の揃った朝食を食べている割合が減少しています。

【体力づくりの推進】

○園でのふれあい遊びやじゃれつき遊びの奨励により、みんなと一緒に遊ぶことの大切さが定着しています。

○学校での体育の時間や休み時間、異学年交流で体を動かすことの楽しさを体験しています。

△学年が上がるにつれて、日常的に運動する子どもとしない子どもの二極化が進む課題があります。

△令和4年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果によると、新型コロナウイルス感染症蔓延の影響もあり、体力合計点は低下しています。

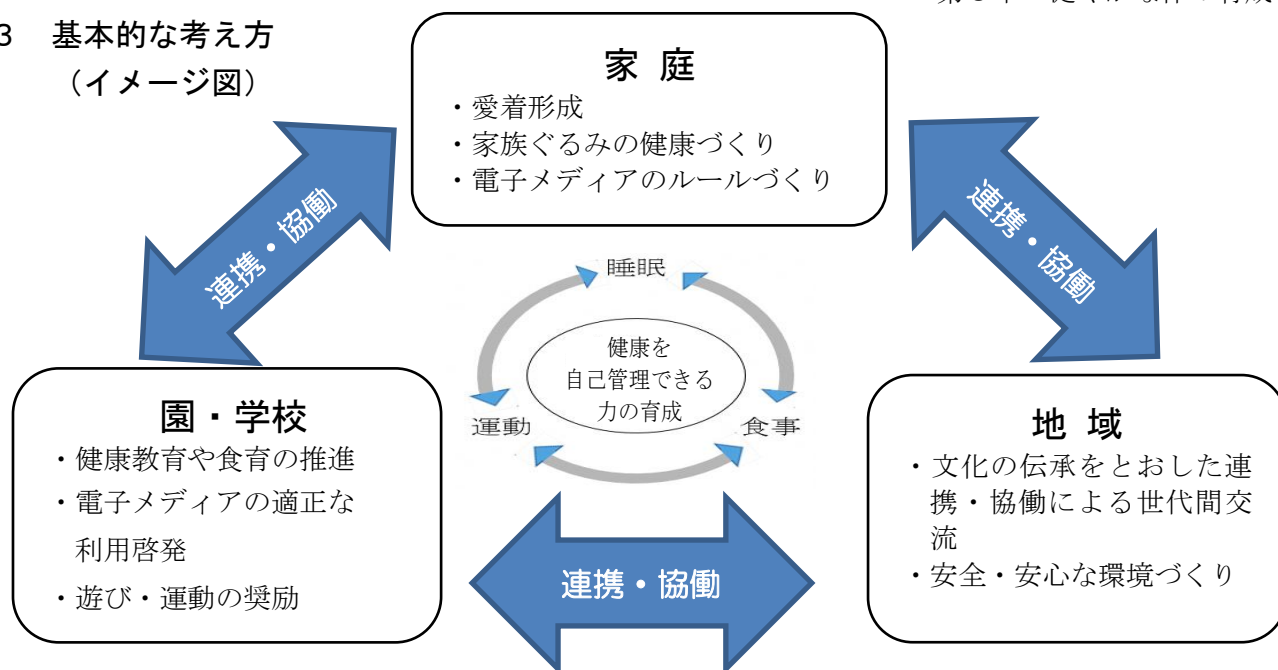
2 令和9年度の目標

基本的な生活習慣を身に付け、生涯にわたって自分の健康を自己管理できる力を育む。

- ・早寝早起きができ、睡眠時間が十分確保できる子ども
- ・家庭内のルールを守り、電子メディア利用の自己管理ができる子ども
- ・主食、主菜、副菜の揃ったバランスのよい朝食をとる子ども
- ・家庭、園・学校、地域で体力づくりに取り組む子ども

^{*1}SNS：ソーシャルネットワーキングサービスの略。インターネット上で登録された利用者同士が交流できる会員制サービス

3 基本的な考え方 (イメージ図)



4 取組の方向

「よく眠り、よく食べ、よく体を動かす」という成長期の子どもにとって、必要不可欠な基本的な生活習慣を実践することが難しくなっています。個々の家庭の問題や責任とするのではなく、家庭、園・学校、地域が互いに連携し、支えあいながら健やかな成長を図るための取組を推進していきます。

(1) 家庭では、愛情をもって子どもに接し、大人がモデルとなって「早寝早起きおいしい朝ごはん」を実践しましょう。

- ・子どもとかかわる時間を大切にし、安心して家庭生活を送れる環境をつくりましょう。
- ・子どもが安心して眠れる環境をつくり十分な睡眠時間を確保しましょう。
- ・電子メディアとのよりよいかかわり方や自己管理ができるよう家庭内でルールを決め、取り組みましょう。
- ・地域の自然の中でたくさん遊びましょう。

(2) 園・学校では、あらゆる教育活動をとおして、望ましい生活習慣が身に付くよう健康教育を推進しましょう。

- ・子どもたちが安心感をもち、安全に遊んだり、活動したりすることができる環境づくりに努めましょう。
- ・保育園や幼稚園と小学校・中学校・高など学校が相互に連携し、睡眠、食事、運動のバランスのとれた生活習慣が身に付くよう健康教育をさらに推進しましょう。
- ・家庭と連携しながら生活リズムの改善に努めましょう。また、子どもが電子メディアとのよりよいかかわり方ができるよう家庭へ働きかけましょう。
- ・保育園や幼稚園では、じゃれつき遊びやふれあい遊び、小学校・中学校・高等学校では、体育の授業や部活動、さらには学校生活の中での遊びや運動を奨励し、「1学校1取組」*2運動を中心に子どもの体力づくりの推進に努めましょう。

*2 「1学校1取組」：新潟県教育委員会による児童生徒の健康増進・体力向上のための取組

(3) 地域では、「地域の子どもは地域で育てる」視点に立って、安心して子育てができる環境づくりに努めましょう。

- ・子どもたちが安全に安心して遊んだり、活動したりすることができる環境づくりに取り組みましょう。
- ・地域ぐるみで子どもの基本的な生活習慣を向上させる取組を進めましょう。
- ・運動を取り入れた行事を開催するなど、地域における世代間交流を進めましょう。
- ・生涯にわたってスポーツを楽しむことができるように、本市で行っている小学校でのスポーツ出前講座や中学校の部活動地域移行など、地域と学校が連携・協働した統合型スポーツクラブ*3の取組を進めましょう。

5 発達段階での指導の重点

【妊娠期】

- ・安心して出産や子育てができるような心身両面での支援
- ・基本的な生活習慣に対する重要性の認識

【乳幼児期】

- ・愛着形成の育成
- ・「早寝早起きおいしい朝ごはん」の実践
- ・じゃれつき遊び、ふれあい・自然遊びの実践
- ・電子メディアによる影響の認識と具体的なルールづくりへの支援

【学童期】

- ・愛着形成と自己肯定感の育成
- ・「早寝早起きおいしい朝ごはん」の実践
- ・体を動かした遊びや運動による体力づくり
- ・電子メディアとのよりよいかかわり方の習慣化と徹底、ルールづくりへの支援
- ・地域行事への参加の促進

【中学生期】

- ・自己肯定感の育成
- ・「早寝早起きおいしい朝ごはん」の実践
- ・生涯を通じた健康づくり（薬物・飲酒・喫煙・心・性を含む）の実践と習慣化
- ・運動や体育の授業、部活動による体力の向上
- ・電子メディアの適切な利用と自己管理の実践
- ・地域行事への参画の促進

【高校生期】

- ・自己肯定感の向上
- ・「早寝早起きおいしい朝ごはん」の実践
- ・生涯を通じた健康づくり（薬物・飲酒・喫煙・心・性を含む）との実践と習慣化
- ・運動や体育の授業、部活動による体力の向上
- ・電子メディアの適切な利用と自己管理の実践
- ・地域行事への参画の促進

*3 統合型スポーツクラブ：多世代、多種目、多志向という特徴をもち、地域住民により自主的、主体的に運営されるスポーツクラブ

(**指導の重点** ○…ねらい ・…実践例)

	妊娠期～ 乳児期～幼児期前期（乳幼児）～3歳	4歳～幼児期後期（園児）～6歳
	基本的信頼・自律性の発達	自律性・自主性の発達
家庭	<p>愛着形成と基本的生活習慣づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ○基本的生活習慣を身に付けさせよう <ul style="list-style-type: none"> ・「早寝早起きおいしい朝ごはん」の生活リズムをつくろう ・添い寝、子守唄、絵本の読み聞かせをし、21時までに子どもを寝かせるようにしよう ・電子メディアが発育発達に及ぼす影響を知ろう ・電子メディアに子守りをさせないようにしよう ○おいしい朝ごはんの重要性を理解しよう <ul style="list-style-type: none"> ・家族揃って食事をしよう ・食べる意欲を育てよう ○親子でふれあう時間を大切にしよう <ul style="list-style-type: none"> ・家族揃って体を動かし、一緒に遊ぶ時間を大切にしよう ・じゃれつき、ふれあい遊びをしよう 	<p>愛着形成と基本的生活習慣づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ○基本的生活習慣を身に付けさせよう <ul style="list-style-type: none"> ・身支度などの身の回りのことは自分でできるようにしよう ・「早寝早起きおいしい朝ごはん」の生活リズム定着を心がけよう ・添い寝、子守唄、絵本の読み聞かせをし、21時までに子どもを寝かせるようにしよう ・電子メディアが発育発達に及ぼす影響を知ろう ・電子メディアを使う場合は、ルールを決め、親子でルールを守ろう ○おいしい朝ごはんの重要性を理解しよう <ul style="list-style-type: none"> ・家族でバランスのよい食事をとろう ○親子でふれあう時間を大切にしよう <ul style="list-style-type: none"> ・じゃれつき遊びでスキンシップを図ろう ・戸外で体を動かして遊ぼう
園・学校	<p>健康教育・食育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○家庭と協力して生活リズムを身に付けさせる <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児期から生活リズムの定着に向け働きかける ・健康教室への積極的な参加を促す ・園と家庭が協力して電子メディアのルールづくりをする ・保育参観、個別懇談、園便りなどにより保護者に伝える ○保護者に食生活や望ましい食習慣について知らせる <ul style="list-style-type: none"> ・保育参観や離乳食講座とおして子どもの発達に応じた離乳食や幼児食を紹介し、いろいろな食材・味に親しめるようにする ○戸外に出て体を動かす体験を多くする <ul style="list-style-type: none"> ・散歩に出かけ、自然に触れて遊ぶ心地よさを体感させる ○体の機能、バランスが育成される遊びを取り入れる <ul style="list-style-type: none"> ・ハイハイしたりよじ登ったり、くぐったり、日常生活の中で探索活動を存分に楽しめる環境をつくる ・じゃれつき遊びを楽しむ 	<p>健康教育・食育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○家庭と協力して基本的生活習慣を身に付けさせる <ul style="list-style-type: none"> ・健康教室への参加や教材の活用を勧める ・身の回りの衛生や安全に関心をもたせる ・園と家庭が協力して電子メディアのルールづくりをする ・保育参観、個別懇談、園便りなどにより保護者に伝える ○食生活や望ましい食習慣について知らせる <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな食材・味に親しみ、好き嫌いせず何でも食べられるようにする ・栽培活動、キッズ・キッチンなど体験の場を提供する ○思いきり全身を使って遊ぶ喜びを体感させる <ul style="list-style-type: none"> ・積極的に集団遊びやじゃれつき遊びに取り組む ・自然にふれ、体を使って遊ぶ体験を多くする ・運動用具を使って遊ぶ楽しさを知らせる
地域	<p>安全・安心の環境づくりと子育て文化の伝承</p> <ul style="list-style-type: none"> ○親子が安心して思いきり体を動かして遊べる場の提供と整備をしよう <ul style="list-style-type: none"> ・自然にふれて遊べる場の整備をしよう ・雨の日も体を動かして遊べる広い遊び場の提供をしよう ・地域行事などへの積極的な参加を呼びかけよう ・昔ながらの遊びの面白さを知らせよう ○子育ての知恵を伝承しよう <ul style="list-style-type: none"> ・育児の相談や手助けができるよう配慮しよう（子育て支援センター、発達支援センターめだか園など） ・地域の親子に積極的に言葉をかけよう（地域の人、お年寄りから伝授） ・地域の食材を使った伝統料理など、食の知識を広げよう 	

(**指導の重点** ○…ねらい ・…実践例)

	7歳～学童期前期（小1～3年生）～9歳	10歳～学童期後期（小4～6年生）～12歳
	勤勉性の発達（前期）	勤勉性の発達（後期）
家庭	<p>愛着形成と基本的な生活習慣づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「早寝早起きおいしい朝ごはん」を習慣化しよう <ul style="list-style-type: none"> ・家族そろって実践しよう ・21時30分までに布団に入るようにし、9～11時間の睡眠時間を確保しよう ・子どもが安心して眠れる環境をつくろう ・電子メディア使用のルールを家族で話し合っ決めて、守ろう ・親子で電子メディア依存の状況（健康被害など）を知り、電子メディアを上手に使える力を育てよう ○栄養バランスのとれた食生活や望ましい食習慣を実践しよう <ul style="list-style-type: none"> ・家族全員が、朝食、昼食、夕食を食べるようにしよう ・主食・主菜・副菜のある朝ごはんを食べよう ・家庭で野菜をつくったり、一緒に食事をつくったりしよう ○親子のふれあいと遊びを推進しよう <ul style="list-style-type: none"> ・親子のふれあいを大切に、一緒に体を動かそう ・遊び方を親から子へ伝承しよう ・地域の行事に、家族ぐるみで参加しよう 	
園・学校	<p>健康教育・食育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○園や学校での健康教育をさらに推進する <ul style="list-style-type: none"> ・「早寝早起きおいしい朝ごはん」を習慣化するよう指導する ・家庭と連携して取り組む ・長時間の電子メディア利用が心身に与える影響について指導する ・電子メディアに対する家庭でのルールづくりを支援する ○栄養バランスのとれた食生活や望ましい食習慣について指導する <ul style="list-style-type: none"> ・バランスのとれた食事の大切さを指導する ・地産地消を推進する ・栽培活動を推進する ○体力づくりの推進を図る指導を行う <ul style="list-style-type: none"> ・遊びや授業などを通じて体を動かすことの楽しさ・面白さを体験させる ・異学年交流を充実する ・ジオの自然を生かした遊びや運動を奨励する ・地域の行事に、家族ぐるみで参加するよう支援する ・運動に親しむ環境づくりに取り組む ・「1学校1取組」運動に積極的に取り組む ・安全・安心に遊んだり、活動したりすることができる環境づくりに努める 	
地域	<p>安全・安心な環境づくりと子育て文化の伝承</p> <ul style="list-style-type: none"> ○子どもが安心して遊んだり運動できたりする場所や時間、機会を確保しよう <ul style="list-style-type: none"> ・遊び場の環境を整えよう ・気軽に遊べる環境を整えよう ・様々な行事への参加を呼びかけよう ・異学年交流を推進しよう ・地域の子どもの積極的に言葉をかけよう ・気軽に育児について相談できるよう配慮しよう ○地域の料理を伝承しよう <ul style="list-style-type: none"> ・地域の特産物や伝統料理など、食の知識を広げよう ○社会教育・スポーツクラブなどの、様々な場や機会を利用して、地域ぐるみで子どもの健全育成に努めよう <ul style="list-style-type: none"> ・地域の子どもの社会教育、スポーツクラブの取組を紹介しよう ・指導者、支援者として活動に協力しよう 	

(**指導の重点** ○…ねらい ・…実践例)

	13歳～思春期前期（中学生）～15歳	16歳～思春期後期（高校生）～18歳
	同一性の発達（前期）	同一性の発達（後期）
家庭	<p>自己肯定感の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○家族そろっての食事や団らの時間を大切にしよう <ul style="list-style-type: none"> ・家族の中で楽しく安心して話せる雰囲気づくりを心がけよう ・うまくいっていることをほめ、自分にもよいところがあるという気持ちを育てよう ・大切な家族の一員であることを伝えよう <p>生活リズム・食育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○一日の生活リズムを計画的に実践しよう <ul style="list-style-type: none"> ・定着した「早寝早起きおいしい朝ごはん」を継続させよう ・自分で設計した生活リズムが守られているか支援しよう ・8～10時間の睡眠時間を確保するよう努力しよう ・電子メディアの使用ルールを守れているか振り返る時間をつくろう ・SNSなどの使用時の正しいルールと知識を身に付けさせ、人権尊重の意識をもって利用できるようにしよう 	<p>自己肯定感の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自己実現に向けた支援をしよう <ul style="list-style-type: none"> ・自分の気持ちや将来についての考えを安心して話せる雰囲気をつくろう <p>生活リズム・食育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○睡眠・食事・運動のバランスがとれているか注意して見守ろう <ul style="list-style-type: none"> ・自分の夢や目標を達成するためには、生活リズムの定着や自分の健康管理ができる力が必要であることを教え、実践させよう ・8～10時間の睡眠時間を確保するよう努力しよう ・電子メディアの使用ルールを守れているか振り返る時間をつくろう ・SNSなどの使用時の正しいルールと知識を身に付けさせ、人権尊重の意識をもって利用できるようにしよう
園・学校	<p>健康教育・食育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生活リズムが健康に及ぼす影響について理解させ、正しい生活習慣を身に付けさせる <ul style="list-style-type: none"> ・1日のスケジュールを作成し、その実践の状況を見守り、指導する ・電子メディアとのかかわりを理解し、適切に利用する態度を養う ・電子メディアとの過度のかかわりが健康被害（視力低下、体力低下など）をもたらしている実態を理解させる ・情報モラル^{*4}やメディアリテラシー^{*5}についての知識を身に付けさせ、人権尊重の意識をもって利用できるように指導する ○食品の栄養素について理解させ実践させる <ul style="list-style-type: none"> ・バランスのよい食事内容について理解し、自ら進んで調理したり食事したりするように指導する ○基礎体力を育成する <ul style="list-style-type: none"> ・授業や部活動、遊びを通じて体力の向上を図る ・体力テストを分析し、更に向上するよう取り組む ・「1学校1取組」運動に積極的に取り組む ・安全・安心に遊んだり、活動したりすることができる環境づくりに努める ○生涯を通じた健康教育を実践する（性に関する指導、心、飲酒、喫煙、薬物乱用防止教育を含む） 	<p>健康教育・食育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○必要性を理解させた上で実践に導く <ul style="list-style-type: none"> ・睡眠、食事、運動のバランスのとれた生活を実践できるように指導する ・電子メディアを適切に利用する態度を養う ・電子メディアへの過度のかかわりが健康被害（視力低下、体力低下など）をもたらしている実態を理解させる ・情報モラルやメディアリテラシーについての知識を身に付けさせ、人権尊重の意識をもって利用できるように指導する ○食事と体の成長について指導と実践をする <ul style="list-style-type: none"> ・バランスのとれた食事や生活リズムが、脳の活動や身体の成長に及ぼすメリットについて理論やデータを示し実践できるように指導する ○体力の保持と増進を図る <ul style="list-style-type: none"> ・授業や部活動を通じて体力の向上を図り生涯スポーツの概念の理解と実践を促す ○生涯を通じた健康教育を実践する（性に関する指導、心、飲酒、喫煙、薬物乱用防止教育を含む）
地域	<p>安全・安心の環境づくりと子育て文化の継承</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域での様々な行事などへの参加を呼びかけよう <ul style="list-style-type: none"> ・地域でのスポーツ、文化奉仕活動などを計画しよう ・親子・異世代間の交流を図る行事を計画しよう ・地域みんなで子どもたちへの目配り・気配りを心がけよう ・統合型スポーツクラブへの参加を呼びかけよう 	<p>安全・安心の環境づくりと子育て文化の継承</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域での様々な行事などへの参加を呼びかけよう <ul style="list-style-type: none"> ・身近な地域でのスポーツ、文化、奉仕活動などを計画するとともに、企画・運営面での参加を呼びかけよう ・親子・異世代間の交流を図る行事を計画しよう ・統合型スポーツクラブへの参加を呼びかけよう

*4情報モラル：情報社会で適正な活動を行うための基になる考え方と態度

*5メディアリテラシー：メディアの意味と特性を理解した上で、受け手として情報を読み解き、送り手として情報を表現・発信するとともに、メディアのあり方を考え、行動していくことができる能力

第4章 確かな学力の育成

1 現状と課題

自分の夢や目標に向けて自らを律し、計画的、継続的に学び続ける姿が、「主体的に学び続ける力」を獲得した「自立する18歳」です。

この姿を実現するために、授業改善の取組及び学習習慣の確立を推進してきました。

令和4年度全国学力・学習状況調査より、教科の平均正答率を全

国と比較すると、本市の小・中学校の正答率は、どの教科も平均を下回りました。また、同調査における肯定的回答の割合を全国と比較すると、家庭学習（塾などを含む）が1日1時間以上の子どもの割合は、小中学校ともに下回っています。一方、夢や目標をもっている子どもの割合や自分にはよいところがあると自分を肯定的に捉えている子どもの割合は、全国を上回っています。

以上から、学校における「主体的に学び続ける力」を育成する取組については、家庭、園・学校、地域の三者が共通して、自分の夢や目標に向けて自らを律し、計画的、継続的に学び続ける子どもの姿を目指すことをその方針としてもち、子どもの夢や目標を支えながら、一人ひとりの学習習慣の確立と家庭学習の習慣の定着に向けて連携して取組を進めていく必要があります。

令和4年度全国学力・学習状況調査 児童生徒質問紙より		
①家庭等（塾等含む）で1日に1時間以上勉強をしますか		
②将来の夢や目標をもっていますか。		
③自分には、よいところがあると思いますか。		
質問	小学校	中学校
①家庭学習	下回る	大きく下回る
②将来の夢	大きく上回る	上回る
③自己肯定感	上回る	大きく上回る
大きく上回る：+5以上（全国比） 上回る：+1以上+5未満 同程度：-1以上+1未満 下回る：-5以上-1未満 大きく下回る：-5未満		

<子どもの学力向上のポイント>

確かな学力を育成するためには、学習者に「主体的に学び続ける力」を養うことが大切で、次の4つがポイントになります。

（1）自己肯定感の向上

家庭や園・学校、地域で、かかわる大人が子どもと目をあわせ、気持ちを汲み取るように心がけるなど、子どもと適切にかかわることが大切です。特に、乳幼児期に家族との友好的なかかわりを重ね、愛着形成を図ることは、子どもの自己肯定感を高め、自立を促すことにつながります。

（2）学習意欲の向上

子どもは、自身が物事に興味・関心をもち、没頭する姿を周囲から認められたとき、また、学習による成長を自ら実感したとき、学びの意欲が引き出されます。発達段階に応じて、家庭や園・学校、地域がそれぞれの立場から、学びの場、教材、活動、働きかけなどを工夫していくことが必要です。特に、高校生にとっては、学校と家庭以外にも、安心して学習できる場所づくりが求められています。

（3）学習習慣の確立

家庭や園・学校が連携し、「話を最後まで聞く」「きちんと記録する」「学習用具を揃える」「決まった時間に家庭学習をする」などの小さな取組

を積み上げることが重要です。特に家庭では、幼少期の絵本の読み聞かせなどが、学童期の宿題や読書、自主学習、思春期の自律的な家庭学習につながることを意識して、家庭における学習時間と場所などの環境を整えるように心がけましょう。

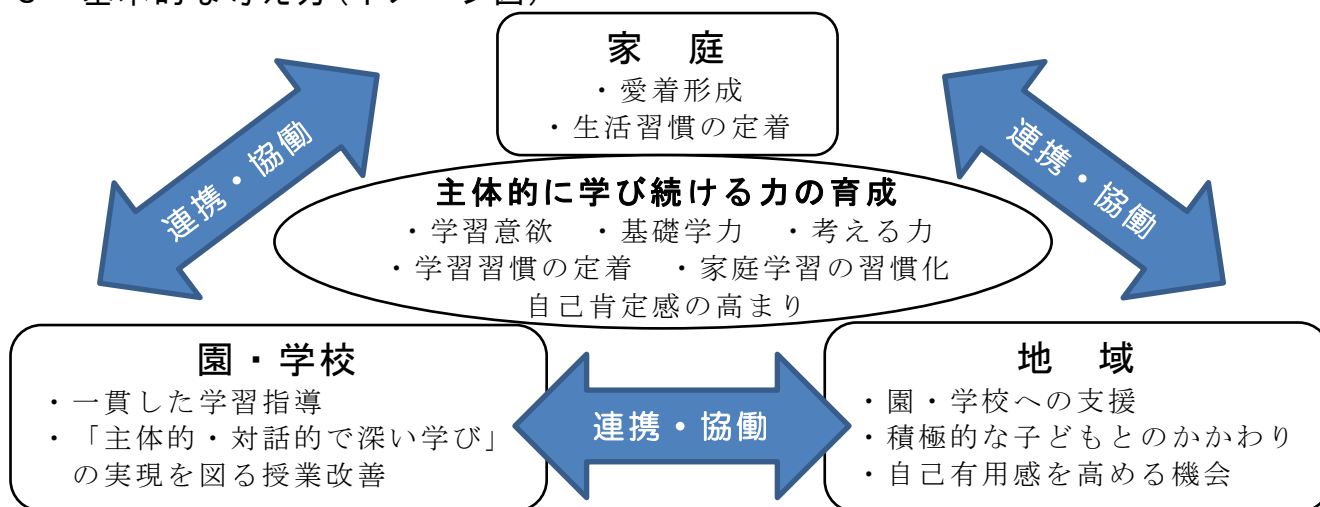
(4) 考える力の育成

家庭や園・学校、地域において、幼児期の豊かな体験、学童期、思春期の知的好奇心を高める学習機会をたくさん提供していくことが肝心です。特に学校では、教科の学習や総合的な学習の時間、探究活動において、課題解決的な学習となるように、教師一人ひとりが教材研究や授業改善などの研鑽に努めることが重要です。

2 令和9年度の目標

自分の夢や目標に向けて自らを律し、計画的、継続的に学び続ける姿が、「主体的に学び続ける力」を獲得した「自立する18歳」です。ここに至るためには、幼少期からの地道な取組の積み重ねが必要です。その取組の指標を小学生と中学生の家庭学習時間とし、「『学年（中学生は6＋学年）×10分』以上家庭学習に取り組む小・中学生の割合が75%以上」を目指します。

3 基本的な考え方(イメージ図)



4 取組の方向

(1) 家庭では

子どもとのふれあいを大切にし、愛着形成に努めます。他者との比較ではなく、子どもの長所をほめ、自己肯定感を高めます。

電子メディアとのかかわり方など、家庭での時間の使い方について話しあい、「望ましい生活リズムの定着」に努めるなど、乳幼児期から思春期後半に至るまで一貫した取組により社会人としての自立を促します。特に、幼児期から学童期、思春期と成長するにつれて、家庭での時間を上手に使い、自律的に家庭学習を行えるよう支援します。

思春期では、将来の夢や自己実現に向けて、子どもの考えを受け止めながら、語りあいましょう。

(2) 園・学校では

園では就学までに、子どもが「相手の話を聞く」「自分の考えや思いを言葉で伝える」ことができるように指導します。小学校・中学校・高等学校では、子どもが主役の分かりやすい授業づくりに努めます。

授業では、基礎学力の定着を図るとともに、子どもの興味関心に寄り添い、主体的な学び、協働的な学び、考えを広げ深める学びの充実を図ります。高等学校では、身近な問題やグローバルな環境問題などについて、問いをもち、探究する力や思考力・判断力・表現力の向上を図ります。

ジオパーク学習やキャリア教育などをおして郷土愛を育み、子どもが夢や目標をもち、その実現に向けて学び続ける意欲を高めるよう取り組みます。地域の人財、ICT機器などを活用した授業づくりや、市が行う漢字・数学・学・英語検定の補助事業により、基礎学力の定着と学ぶ意欲の向上を図ります。

(3) 地域では

自己肯定感を高めるために、地域行事への参加を促したり、夢や目標の実現に向けた支援に努めたりします。また、学校と家庭以外にも、安心して学習できる場所づくりを模索します。

子どもたちに地域で働く大人の姿を見せ、直接かかわらせ、地域を支える知恵や技能、思いを感得させます。地域づくりに参画できる環境整備に努めます。

5 発達段階での指導の重点**0～3歳 【乳幼児期】安心して遊べる（学べる）環境づくり**

- ・スキンシップや絵本の読み聞かせなどによる愛着形成
- ・基本的な生活習慣の定着

4～6歳 【幼児期】集団の遊び（学び）による自発性の育成

- ・多様な遊び、自発的な人・自然とのかかわり
- ・基本的な生活習慣の定着

7～9歳 【学童期前期】知的好奇心の育成と学習習慣の確立

- ・遊び、体験活動、学習による知的好奇心の育み
- ・学ぶことに興味や関心をもつ
- ・学習習慣の定着

10～12歳 【学童期後期】興味・関心を基にした学びと考える力の育成

- ・基礎学力の定着と探究的活動や体験活動による学び方の習得
- ・協働活動を通じ、自己の考えを広げ深める
- ・自主的な家庭学習の習慣化

13～15歳 【思春期前期】課題解決に向けた協働的な学びと自律的な学習

- ・探究活動や職場体験活動による自己のキャリア形成
- ・自律的な家庭学習

16～18歳 【思春期後期】夢を描き、その実現に向けた学びへの支援

- ・協働活動を通じ、自己の考えを広げ深める
- ・夢へチャレンジするための専門的学習、資格の取得
- ・自律的な家庭学習

自立

(**指導の重点** ○…ねらい ・…実践例)

	0歳～乳児期～幼児期前期（乳幼児）～3歳	4歳～幼児期後期（園児）～6歳
	基本的信頼・自律性の発達	自律性・自主性の発達
家庭	愛着形成と基本的な生活習慣の定着	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">信頼関係づくり</div> <ul style="list-style-type: none"> ○抱っこ、おんぶ、添い寝、語りかけなどのじゃれつき遊びをとおしたスキンシップで親子関係を深めよう ○しっかり運動、たっぷり睡眠をさせよう <ul style="list-style-type: none"> ・寝返り、はいはい、つたい歩きなど、発達に応じた運動を十分させよう ○基本的生活習慣を身に付けさせよう <ul style="list-style-type: none"> ・トイレ、歯磨き、着替えなどは園と協力しよう ・「早寝早起きおいしい朝ごはん」を習慣にしよう <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">自発的な動きづくり</div> <ul style="list-style-type: none"> ○自発的な動きを大切にしよう <ul style="list-style-type: none"> ・できたときは皆でほめるなど、よい行いを奨励しよう 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">発達に応じた多様な遊び</div> <ul style="list-style-type: none"> ○ふれあい・じゃれつき遊びで親子の絆を深めよう <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな運動や遊び・絵本の読み聞かせをしよう ○家や地域の自然を生かして親子で遊ぼう <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">保護者会への積極的な参加</div> <ul style="list-style-type: none"> ○保護者会に参加し成長を確かめよう ○基本的生活習慣を身に付けさせよう <ul style="list-style-type: none"> ・早寝早起きおいしい朝ごはんを習慣にしよう ・電子メディアとの付き合い方は、各家庭でルールを決め守らせよう
園・学校	発達・年齢に合った遊び（学び）	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">ひとり遊び（乳児期）</div> <ul style="list-style-type: none"> ○保育者との信頼関係を築く <ul style="list-style-type: none"> ・安心して遊び、生活できるようにする ○安全な遊びの環境を整える <ul style="list-style-type: none"> ・興味関心を広げ、じっくり遊べるようにする <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">幼児期後期への緩やかな接続（幼児期前期）</div> <ul style="list-style-type: none"> ○ひとり遊びから緩やかに集団遊びへ発展させる <ul style="list-style-type: none"> ・遊具などによる様々な遊びの場を用意し、自由に遊べるようにする ・発達段階が同程度の園児と一緒に保育しながら、自発的な集団遊びに導く 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">テーマを設定した遊び（幼児期後期）</div> <ul style="list-style-type: none"> ○学びの基礎づくり～自発的な遊びからの学び～ <ul style="list-style-type: none"> ・健康・人間関係・環境・言葉・表現 ○集団遊びで人間関係を深める <ul style="list-style-type: none"> ・発達に応じた多様な集団遊びで自発性を育成する <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">小学校への接続（幼児期後期）</div> <ul style="list-style-type: none"> ○小学校での生活や学習に向けて準備を進める <ul style="list-style-type: none"> ・話、指示を聞く・時間を決めて動く ・身の回りのことを自分でできるようにする ・小学校生活の疑似体験などにより小学校生活へ適応しやすくする
地域	子どもは糸魚川市の宝として、地域みんなで育てる	
	<ul style="list-style-type: none"> ○出産を祝い、育児を支援しよう <ul style="list-style-type: none"> ・地域の伝統行事で祝おう ・温かい声かけで見守ろう 	<ul style="list-style-type: none"> ○園児の活動を支援しよう <ul style="list-style-type: none"> ・地域の公園（遊び場）を整備しよう ・ゲストティーチャーとして園児の活動を支援しよう ○地域の伝統行事で交流しよう <ul style="list-style-type: none"> ・地域の行事に園児を招待しよう ・昔ながらの遊びで園児と遊ぼう

(指導の重点 ○…ねらい …実践例)

	7歳～学童期前期（小1～3年生）～9歳	10歳～学童期後期（小4～6年生）～12歳
	勤勉性の発達（前期）	勤勉性の発達（後期）
家庭	<p>小学校生活への適応</p> <ul style="list-style-type: none"> ○基本的な生活習慣を身に付けさせよう <ul style="list-style-type: none"> ・自分の身の回りのことができるようにしよう ・忘れ物をせず学校へ行けるようにしよう ○炊事などの家事手伝いをさせよう <p>学校生活の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ○小学生としての生活リズムを身に付けさせよう <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが就寝・起床時間を守り、きちんと朝食がとれるようにしよう ○家庭学習の習慣を身に付けさせよう <ul style="list-style-type: none"> ・決めた時間や場所で宿題や読書、自主学習ができるようにしよう ・寝る前に、次の日の学習準備を自分でできるようにしよう 	<p>学校生活の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ○規則正しい生活リズムを身に付けさせよう <ul style="list-style-type: none"> ・電子メディアを利用する際のルールをつくり、守らせよう ・子どもが就寝・起床時間を守り、きちんと朝食がとれるようにしよう ○家庭学習の習慣を身に付けさせよう <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが、決めた時間や場所で家庭学習や読書を行えるように環境を整えよう ・「学年×10分以上」を目安に家庭学習に取り組むようにしよう <p>中学校生活への準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域の活動や行事に参加させよう <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが地域の活動に積極的に参加し、役割を果たすようにしよう ○中学進学への夢や目標をもたせよう <ul style="list-style-type: none"> ・将来の仕事や進路について家族で話しあおう ・中学校生活での目標をもたせよう
園・学校	<p>小学校生活への適応</p> <ul style="list-style-type: none"> ○小学校のルールを守り、集団生活に慣れさせる <ul style="list-style-type: none"> ・時間を守って仲間と共に生活できるようにする ・授業中は、話を1回で聞く ○学習の中で発見する喜びや、できるようになった喜びを体験させる <p>学習習慣づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ○確かな基礎学力の定着を図る <ul style="list-style-type: none"> ・計算（加減乗除）が正しくできる ・漢字を正しく読んだり書いたりする ○直接体験により、興味関心や知的好奇心を育む ○「考える力」を身に付けさせる <ul style="list-style-type: none"> ・課題に対する自分の考えをノートに書く ・自分の考えを伝えたり仲間の考えを聞いたりする ・文字入力などICTの基本的な操作を理解する ○毎日、家庭学習に取り組ませる <ul style="list-style-type: none"> ・自主的に「学年×10分以上」の家庭学習に取り組む ・出された宿題を必ずやり、翌日の朝に提出する 	<p>学習習慣づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ○確かな基礎学力の定着を図る <ul style="list-style-type: none"> ・各教科の基礎基本の学習を身に付ける（英語活動に親しむ） ・教科書の文章を滑らかに読める ○目的意識をもって、他者と協力しながら、課題解決を図るようにする ○「考える力」を身に付けさせる <ul style="list-style-type: none"> ・課題に対する考えを順序立ててノートに書く ・考えを伝え、話しあって自分の考えを深める ・ICTを活用して、情報を整理し、分かりやすく表現する ○自主性が高まるように家庭学習に取り組ませる <ul style="list-style-type: none"> ・自主的に「学年×10分以上」の家庭学習に取り組む ・予習や復習など自分に必要な学習を考え、積極的に取り組む <p>中学校への接続</p> <ul style="list-style-type: none"> ○中学校生活への夢や目標をもたせる <ul style="list-style-type: none"> ・将来の夢や中学校での目標をもつ ・陸上大会などの各種大会や中学校区との取組とおして他校の児童生徒とふれあう
地域	<p>子どもは糸魚川市の宝として、地域みんなで育てる</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校の教育活動を支援し、地域子どもたちに糸魚川のすばらしさを教えよう <ul style="list-style-type: none"> ・生活科、総合的な学習の時間などで、積極的に学校へ出向き仕事の内容や糸魚川の特徴を話そう ・糸魚川ユネスコ世界ジオパークを学ぶことをとおして、子どもが糸魚川には自然豊かで地理的に特徴があることを知り、愛着をもつことができるようにしよう ・相馬御風など、糸魚川には多くの偉人や温かい地域の人がいることを知らせ、子どもが自分の生き方に生かそうとする姿勢を育もう 	

(**指導の重点** ○…ねらい …実践例)

	13歳～思春期前期（中学生）～15歳	16歳～思春期後期（高校生）～18歳
	同一性の発達（前期）	同一性の発達（後期）
家庭	<p>中学校生活の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ○中学生としての生活リズムを身に付けさせよう <ul style="list-style-type: none"> ・生活ノートを活用し、家庭での時間の使い方を工夫させよう 【家庭学習（6＋学年）×10分以上】 ○学習環境を整えさせよう <ul style="list-style-type: none"> ・家庭で電子メディアとの上手な付き合い方のルールについて話しあい、ルールを守らせよう <p>夢や目標に向かう意欲付けと励まし</p> <ul style="list-style-type: none"> ○夢や目標を描けるような機会をもとう <ul style="list-style-type: none"> ・家族で講演会や発表会、地域行事に参加しよう ・夢や目標について家族で話しあおう 	<p>社会人としての自覚の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○社会人としての自覚をもたせよう <ul style="list-style-type: none"> ・生活リズムを守り、健康的に生活できるようにしよう ・マナーや礼儀をわきまえ、社会人としての自覚をもたせよう <p>夢や目標に向かう意欲付けと励まし</p> <ul style="list-style-type: none"> ○夢の実現を励まし支援しよう <ul style="list-style-type: none"> ・市内の文化・環境資源に触れ、地域について話しあおう ・将来について家族で語りあい、子どもに自分自身の「生き方」を考えさせるようにしよう
園・学校	<p>課題解決に向けた学びの場づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ○授業改善により、学び続ける生徒を育てる <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えをもち、ねらいにあった意見が言える ・自分の学びを振り返り、自己変容を自覚する ○ICTを効果的に活用する <ul style="list-style-type: none"> ・仲間の多様な価値観に触れ、違いを認め、課題解決を図る <p>学習習慣づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自律的な学びを支援する <ul style="list-style-type: none"> ・生活ノートを利用し、宿題と自主学習を計画的に行う 【（6＋学年）×10分以上】 ・ノートづくりなど、自分にあった学習方法を身に付ける ○夢や目標に向けて努力する姿勢を育てる <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育や体験活動をとおして将来のイメージをもち、夢の実現に向けての取組を行う <p>【大学訪問、職場体験学習など】</p> <p>・中学生が高校体験入学で模擬授業を体験し、高校生活への夢や希望をもつ 【高校生活への緩やかな接続を目指し、中・高校が連携して各種取組を行う】</p>	<p>高校生活への適応から学力養成へ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○探究学習によって地域で活躍できる人間性を育む <ul style="list-style-type: none"> ・身近な問題やグローバルな環境問題などについて、問いをもち、解決策を探求する <p>学習習慣づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ○夢の実現に向けて学び続ける確かな学力向上を図る <ul style="list-style-type: none"> ・将来の目標をもち、自己実現を目指して学習する ・学年＋1時間の自主学習を計画的に行う <p>【自主学習ができる場の整備、外部教育産業との連携】</p> <p>社会性の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○社会人としての言動が身に付くようにする <ul style="list-style-type: none"> ・集団の中（学校行事・部活動など）での自己の役割や責任を果たす ・自己の生活や行動に社会的な責任があることを自覚する ○地域の諸課題に積極的にかかわり、社会で通用する資質・能力を育てる <ul style="list-style-type: none"> ・地域社会の一員として、主体的な課題追究を行う ○夢や目標の実現に向けた取組を促す <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育を通して資格取得やボランティア活動を積極的に行う ・大学生やUターン者から話を聞き、自分の生き方を考える
地域	<p>子どもは糸魚川市の宝として、地域みんなで育てる</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> ○学校の活動を支援しよう <ul style="list-style-type: none"> ・行事、地域学習で交流しよう ・ゲストティーチャーとして学校の活動に参画・支援し、生き方や専門性を学ばせよう ○地域行事に積極的に参加させよう <ul style="list-style-type: none"> ・地域行事をとおして地域の大人から生き方を学ばせよう 	<ul style="list-style-type: none"> ○夢や目標の実現に向けた支援をしよう <ul style="list-style-type: none"> ・職場体験など、地域での活動をとおして大人から生き方を学ばせよう ○ふるさとへの愛着をもつ活動を支援しよう <ul style="list-style-type: none"> ・積極的にジオパーク学習を推進・支援しよう ・子どもと一緒に地域行事に取り組む機会をつくろう ・協働の場をつくろう